

名木や ああ名木や 名木や



今月は、崖に続いて「木」です。しかも、「名木」と言われる木をご紹介します。平成23年5月に、世田谷区みどりのみず政策担当部みどり政策課が発行した「世田谷名木百選」から、誰でも鑑賞できる玉川地域にある名木を選びました。爽やかな秋の1日の心地よい名木巡りのハイキングと張り切って出発。地図には、住所と大まかな位置、写真が掲載されているのできっと崖よりも楽だろうとナメてかかったのが大失敗！名木のあるところには他の木も多く、木の種類など知らない私は、写真の百選に選ばれた「木」がどれだか全然分からず最初の訪問地「砦公園」で「木」を探してさ迷い歩くこと1時間。最後は公園管理事務所で聞いてやっとわかる始末。こんなんだったら最初から聞けばよかったと反省しきりでした。



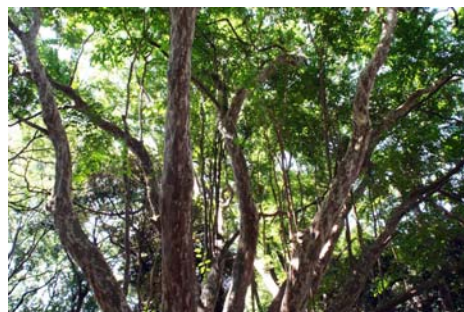
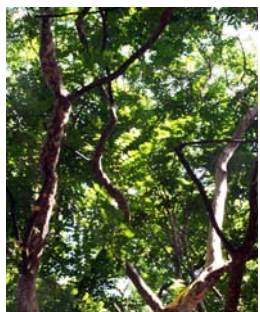
クヌギ 世田谷美術館前

こんなに目立つところにあるのに、この木にたどり着くのに30分は探し歩きました(くどいぞ)。デカイです！とにかく大きい！幹周りは3m15cm！私のウエストなんかカワイイもんです。クヌギは岩手県・山形県以南の本州・四国・九州に広く分布する落葉高木。コナラと並んで夏緑広葉樹の代表と言われています。売店もそばにあり、ベンチもあるのでゆっくり鑑賞することができます。



シマサルスベリ 砦公園内

「シマサルスベリ」です。この木には表示が無いので探すのに苦労しました。ついには公園管理事務所に駆け込みました。実は正門左手に群生していたとのこと。その他、砦大塚の横、ねむのき広場等にもあります。幹がツルツルしているので触るとわかりやすいかも知れません。シマサルスベリは、沖縄、中国、台湾に分布する落葉高木で最大20mくらいになります。花期は6～8月頃で白い花を咲かせます。樹皮は同属のサルスベリほどではないものの滑らかで、はげ落ちやすい。はげ落ちたところは木肌が見えて斑模様になります。シマの付かない用賀のバス通り沿いの普通の「サルスベリ」をイメージして探すと見つかりません。砦大塚横に群生している「シマサルスベリ」も先ほどの「クヌギ」に負けず劣らず巨大です。そのデカさは正直カワイクナイほどです。群生しているとちょっと怖いくらいですが、日陰を作ってくれるので、夏は助かります。



* てくたく刀サッチ#2「兵庫島」*

1358年に新田義貞の次男である新田義興が、多摩川矢野口の渡を渡河した際に江戸荘領主の江戸遠江守の策略によって、底に柱が仕掛けられた船に乗ってしまう。船頭が柱を抜いて逃げるのと同時に足利方軍勢が攻めかかり、義興はもはやこれまでと自害する。しかし、気強い従者達には川を泳ぎきって敵兵に立ち向かい、自害して果てる者もあった。中でも由良兵庫助・新左衛門の兄弟は、舳先にたち、刀を逆手に取り直して互いに自分の首を切り落とした。その壮絶な死を遂げた由良兵庫助の死体が多摩川と野川の合流部にあるデルタ地帯の島に流れ着いたのであるが、これに対して村人達は災いを恐れて兵庫助をこっそりとこの島に供養した。これが兵庫島の名の由来であるとされています。兵庫県は関係なし。

